

他都市の歴史的建造物の保存・活用の事例について

平成26年度以降、明治、大正及び昭和初期に建築された他都市の歴史的建造物のうち、広島大学旧理学部1号館の保存・活用に当たり、参考となる事例（全部保存、一部保存及び象徴保存の事例：15施設）を調査しました。その概要は下表のとおりです。

1 全部保存

保存類型	建物名称	所在地 (所有者)	建築年	改修年 [改修時の築後年数]	用途
全部保存	1 旧戸畑区役所	北九州市 (北九州市)	昭和8年 (1933年)	平成26年 (2014年) [築後81年]	区役所を戸畑図書館に改修
	2 名古屋市本庁舎	名古屋市 (名古屋市)	昭和8年 (1933年)	平成27年 (2015年) [築後82年]	市庁舎
	3 名古屋市公会堂	名古屋市 (名古屋市)	昭和5年 (1930年)	平成30年(予定) (2018年) [築後88年]	公会堂
	4 麻布郵便局	東京都 (民間)	昭和5年 (1930年)	昭和62年 (1987年) [築後57年]	郵便局
	5 学習院大学 南一号館	東京都 (学習院大学)	昭和2年 (1927年)	平成25年 (2013年) [築後86年]	理学部校舎を一般校舎に改修
	6 旧公衆衛生院	東京都 (港区)	昭和13年 (1938年)	平成29年予定 (2017年) [築後79年]	事務所を郷土資料館、在宅緩和ケアセンター、子育て関連施設に改修
	7 九州大学 旧工学部本館	福岡市 (九州大学)	昭和5年 (1930年)	未定 [築後86年経過]	工学部校舎を学内の各学部 の教育・研究施設として使用中 保存・活用を検討中
	8 旧通信省 下関電信局 電話課庁舎	下関市 (下関市)	大正13年 (1924年)	平成22年 (2010年) [築後86年]	庁舎を展示資料館(田中絹代 ぶんか館)に改修
	9 北海道大学 理学部本館	北海道 (北海道大学)	昭和4年 (1929年)	平成28年 (2016年) [築後87年]	理学部本館の一部を総合博物 館に改修

2 一部保存

保存類型	建物名称	所在地 (所有者)	建築年	改修年 [改修時の築後年数]	用途
一部保存 躯体の一部保存	10 日本工業 倶楽部会館	東京都 (民間)	大正9年 (1920年)	平成15年 (2003年) [築後83年]	ホール、会議室
	11 旧東京中央郵便局	東京都 (民間)	昭和6年 (1931年)	平成25年 (2013年) [築後82年]	郵便局をJPタワーの一部 (郵便局、店舗等)として改修
	12 日本橋ダイヤ ビルディング	東京都 (民間)	昭和5年 (1930年)	平成26年 (2014年) [築後84年]	事務所、貸倉庫
	13 旧岐阜県庁舎	岐阜市 (岐阜県)	大正13年 (1924年)	平成26年 (2014年) [築後90年]	県庁舎(H25.3閉庁) 保存・活用を検討中
一部保存 外壁のみ保存	14 神戸地方裁判所	神戸市 (法務省)	明治37年 (1904年)	平成3年 (1991年) [築後87年]	裁判所

3 象徴保存

保存類型	建物名称	所在地 (所有者)	建築年	改修年 [改修時の築後年数]	用途
象徴保存 外壁のみ保存	15 旧第一銀行 神戸支店	神戸市 (民間)	明治41年 (1908年)	平成13年 (2001年) [築後93年]	事務所をみなと元町駅(市営 地下鉄駅出入口)に改修

1 旧戸畑区役所 建築年 昭和8年(1933年) 構造 鉄筋コンクリート造 規模 地上3階、地下1階 塔屋3階 建築面積：1,076.76㎡ 延床面積：2,889.66㎡ 特徴 ・シンボルである塔屋や重厚なスクラッチタイル仕上げ(旧理学部1号館でも使用)の外観を保存するため、外部に耐震補強を施さず、内部において鉄骨アーチフレームなどによる耐震補強を行った。 ・スクラッチタイルを当初に近い形で焼き直すなど、外観を復元した。		 <p>建物外観</p>  <p>鉄骨アーチフレーム</p>  <p>玄関</p>  <p>ライブラリーカフェ</p>	2 名古屋市本庁舎 建築年 昭和8年(1933年) 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 規模 地上5階、地下1階 塔屋5階 建築面積：4,496㎡ 延床面積：24,404㎡ 特徴 ・平成22年に、既存基礎と地下1階床下の間に免震装置を設置する基礎免震による耐震改修を実施した。 ・平成24～26年に老朽化対策のため、外壁改修を実施した。 ・平成26年12月に国の重要文化財(建造物)に指定された。 ・映画等の撮影場所として使用されている。「官僚たちの夏」、「SP 革命篇」等		 <p>建物外観</p>  <p>外壁近景 (近景では、張り替えた部分のタイルが分かる)</p>  <p>玄関ホール階段</p>  <p>2階渡り廊下</p>
3 名古屋市公会堂 建築年 昭和5年(1930年) 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 規模 地上4階、地下1階 建築面積：2,670㎡ 延床面積：11,939㎡ 特徴 ・昭和天皇のご成婚記念事業として、昭和5年に開館した。 ・昭和55年に、市制90年記念事業として大規模な改修を行った。 ・平成27年度に、実施設計を行い、平成29～30年度に、大ホールの舞台改修、耐震改修、外観を初めとした歴史的価値の保全のための改修を実施する予定である。		 <p>建物外観</p>  <p>建物左側 (石材落下対策の足場とネット)</p>  <p>正面玄関車寄せ</p>  <p>大ホール</p>	4 麻布郵便局 建築年 昭和5年(1930年) 構造 鉄筋コンクリート造 規模 地上5階 建築面積：11,185㎡ 延床面積：40,076㎡ 特徴 ・スクラッチタイル(旧理学部1号館でも使用)を当初に近い形で焼き直すなど、外観を復元した。 ・内部は、柱の構造補強、耐震壁の増設等耐震性を強化し、間仕切り壁・天井等内装工事、設備工事により、全面的にリニューアルを行った。		 <p>建物外観</p>  <p>外壁近景 (外装はスクラッチタイル)</p>  <p>正面玄関</p>  <p>内観 (建物内部は全改修)</p>

5 学習院大学南一号館

建築年	昭和2年(1927年)
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上3階、地下1階 建築面積：830㎡ 延床面積：2,674㎡

特徴

- 平成21年に国の登録有形文化財に指定された。
- 平成22年に、理学部移転に合わせ改修工事が計画され、
 - ①耐震改修(耐震壁新設)
 - ②外壁改修(新規タイルへの貼り替え。一部オリジナルタイルの存置・再利用)
 - ③建具改修及びバリアフリー改修(エレベーター棟増築等)を行った。



建物外観

(改修前のアルミ製建具(シルバー)を当初の鉄製建具に近い色(茶系)のものに取替)



外壁近景

左側：既存タイル、右側：新設タイル(スクラッチタイル)



建物側面

(突出部は化学実験用の排気装置)



1階階段ホール

既存のアルデコ調手すりにガラスと手すりを新設

6 旧公衆衛生院

建築年	昭和13年(1938年)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
規模	地上5階、地下2階、 塔屋3階 建築面積：2,923㎡ 延床面積：15,090㎡

特徴

- 平成21年に国との土地交換により、港区が土地・建物を取得した。
- 昭和13年竣工の建物を保存し、郷土資料館、在宅緩和ケア支援施設、子育て支援施設等の複合施設を整備し、活用する。
 - ①基本計画：平成24～25年度
 - ②基本・実施設計：平成25～27年度
 - ③改修工事：平成27～29年度
 - ④開設：平成29年度



建物外観

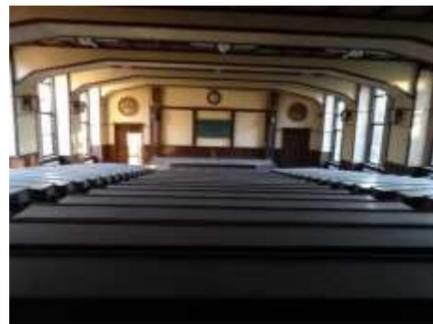


外壁近景

(外壁仕上げはスクラッチタイル)



建物正面右側



階段講義室

7 九州大学旧工学部本館

建築年	昭和5年(1930年)
構造	鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート
規模	地上5階、地下1階 延床面積：10,324㎡

特徴

- 総合移転に当たり、平成24年にキャンパス内に残る近代建築物24棟の建築学的価値や老朽化の具合を調査し、総合的な評価を行った。
- 九州大学を象徴するきわめて評価の高い近代建築物として、保存・活用を前提に運営主体を探るとともに、ふさわしい機能を導入する予定である。
- 今後、土地建物の取得や事業手法について、関係者で検討している。



建物外観



会議室

(教授会等で使用)



正面玄関



総合博物館

(常設展示室)

8 旧通信省下関電信局電話課庁舎

建築年	大正13年(1924年)
構造	鉄筋コンクリート造(煉瓦造混構造)
規模	地上3階 建築面積：384.12㎡ 延床面積：836.47㎡

特徴

- 大正13年に旧通信省下関電信局電話課庁舎として竣工し、昭和44年に、下関市の所有となった。
- 平成5年に、市が解体方針を決定したが、平成11年に、建物保存に対する市民の盛り上がりを受け、解体から保存へ方針を転換した。
- 平成20年に、改修工事に着工し、平成22年に、「田中絹代ぶんか館」として開館した。



建物外観



BIMディスプレイ

近代建築資料として後世に残すため「ビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)*」という手法で、旧庁舎建物全体の3Dモデル化を行っている。



屋上



3階休憩室

9 北海道大学理学部本館

建築年	昭和4年(1929年)
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上3階、塔屋1階 建築面積：3,596㎡ 延床面積：10,801㎡

特徴

- ・400万点を越す貴重な学術標本收藏のため、1966年から総合博物館の設置が検討されてきた。
- ・昭和41年に、理学部本館建物を総合博物館として再利用し、約9,000㎡の総合博物館とする構想がまとまった。
- ・平成13年に、第1期工事分の改修が行われ、平成26年に、第2、第3期の改修工事に着手した。平成28年7月にリニューアルオープンする予定。



正面玄関



アインシュタインドーム
(階段室上部)



正面玄関細部



階段室石張り柱頭

10 日本工業倶楽部会館

建築年	大正9年(1920年)
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
規模 (高層棟含む)	地上30階、地下4階 (倶楽部棟：地上6階) 建築面積：5180㎡ 延床面積：109,714㎡

特徴

- ・平成12年に、国の登録有形文化財に指定された。
- ・現存する倶楽部会館の1/3にあたる大会堂、大ホール部分の躯体を保存、残りの躯体を新築した。
- ・屋上の坑夫と織女の像、正面玄関の石柱、石材等はオリジナルの材料を使用した。



建物外観(近景)



正面玄関



建物外観(遠景)



正面玄関

11 旧東京中央郵便局

建築年	昭和6年(1931年)
構造 (高層棟含む)	鉄骨造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造
規模	地上38階、地下4階 建築面積：8,500㎡ 延床面積：212,000㎡

特徴

- ・東京駅前広場に面する部分を保存・整備した低層棟(郵便局、店舗など)と新設した高層棟(事務所)からなる複合施設。
- ・既存の外壁タイルを一部再利用し、大部分は既存と調和するものを新たに製作した。
- ・アトリウム(写真右上参照)から保存躯体の断面を見せる工夫をしている。
- ・コンクリートの中酸化対策のため、外壁等の室内側に電気化学的再アルカリ化工法を実施した。



建物外観



商業施設(左側保存部分)



郵便局(保存部分)

12 日本橋ダイヤビルディング

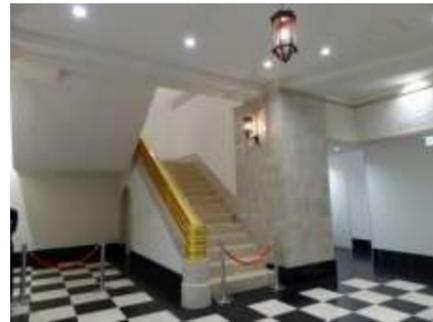
建築年	昭和5年(1930年)
構造 (高層棟含む)	高層部：鉄骨造 低層部：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造
規模	地上18階、地下1階 建築面積：2,500㎡ 延床面積：30,000㎡

特徴

- ・平成19年に、東京都選定歴史的建造物に指定された。
- ・歴史的建造物を保存することが評価され、300%の容積割増(特定街区制度)の対象となった。
- ・公開スペースとして、1階建物内部に、日本橋界隈の変遷や倉庫業の歴史を展示するとともに、日本橋川の河畔側に親水空間を設け、地域に開放している。



建物外観



玄関ホール
(床の大理石は再利用)



公開スペース
(保存躯体部分(左側の鉄製開口部は当初の物))



公開スペース
(日本橋川に面する親水空間)

1 3 旧岐阜県庁舎

建築年	大正 13 年 (1924 年)
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上 3 階、地下 1 階、 塔屋 1 階 建築面積：1,250 m ² 延床面積：5,110 m ²

特徴

- 昭和 41 年までは岐阜県庁として、以後岐阜総合庁舎として使用されていたが、耐震性の問題から平成 25 年 3 月末に閉庁した。
- 知事室などがある前側部分の建物のみ保存し(安全性確保のため閉鎖中)、残りを全て解体した。現在、保存部分の活用策を検討している。
- 映画等の撮影場所として使用されている。「聯合艦隊司令長官山本五十六」等)



建物外観



建物背面

既存撤去部分は同系色の押出成形セメント板を設置



内観

(大理石を使用した暖炉のある知事室)



内観

(正面の階段を昇った後にある階段)

1 4 神戸地方裁判所

建築年	明治 37 年 (1904 年)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造
規模	地上 5 階、地下 1 階、 塔屋 1 階 建築面積：3,777 m ² 延床面積：18,947 m ²

特徴

- 旧庁舎は昭和 20 年の空襲で外壁だけを残して焼け落ち、戦後に復元された。現庁舎新築の際、外壁煉瓦の強度が十分な耐力を有していたことから、外壁(南正面及び東・西面)のみを保存利用し、旧面積の 3 倍強の面積を持つ新庁舎を建設した。
- 保存外壁から上階の仕上げにガラスのカーテンウォールを使用し、ガラスが背景に溶け込み煉瓦の壁が浮かび上がるよう配慮している。



建物外観



保存外壁との境部分
(内側に厚さ 20cm のコンクリート壁を設置)



建物正面



建物側面

1 5 旧第一銀行神戸支店

建築年	明治 41 年 (1908 年)
構造	煉瓦造、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
規模	地上 1 階、地下 1 階 建築面積：199 m ² 延床面積：199 m ²

特徴

- 東京駅を設計した辰野金吾の設計で建設され、昭和 41 年から 20 年間は建設会社の支店として使用された。
- 阪神・淡路大震災で屋根が崩れ落ち、内部復旧が難しい状態となり、西・南面の煉瓦壁のみ保存し、残りを全て解体した。
- 煉瓦壁が自立できるよう裏側を鉄筋コンクリートで補強し鉄骨で支持した。また、瓦タイルを貼り、屋根を銅板葺にする等の保存修復工事を行った。
- 現在は、「みなと元町駅」の出入口として使用されている。



道路面外観



新設壁と保存外壁



裏側外観